



遠軽町における住宅等の耐震化目標

国の新たな基本方針をはじめ、北海道の耐震改修促進計画では、平成32年度までの耐震化率を住宅及び多数利用建築物それぞれを95%とすることを目標としています。

遠軽町においても、平成21年に策定した計画を見直し、国や北海道と同様に平成32年度における住宅の目標耐震化率を95%と定め、より一層の耐震化の促進に取り組みます。

また、計画期間である平成37年度までには、可能な限り耐震性のない住宅・多数利用建築物の解消を目指します。

住宅 🏠	H21 計画当初	H30 現況	H32 耐震化目標
	46%	64%	95%
多数利用 建築物 🏢	H21 計画当初	H30 現況	H32 耐震化目標
	38%	68%	95%



自分でできる住宅の耐震診断

自己診断表『誰でもできるわが家の耐震診断』

お住まいになっている住宅について、住んでいる方がご自身で住宅の耐震診断を行い、住宅のどのようなところに地震に対する強さ、弱さのポイントがあるのかなどがわかるようにできています。



インターネットでできる

「誰でもできるわが家の耐震診断」

自己診断はパソコンやスマートフォンからどなたでも自由に行えます。



木造住宅無料簡易耐震診断

遠軽町では、耐震改修促進計画に基づく、住宅の耐震化の促進を図るため、木造住宅の簡易耐震診断を実施しています。

無料簡易耐震診断には、申込書とその他必要な書類・図面等をご用意していただきますので詳細については、下記までお問い合わせ願います。

対象となる住宅は・・・ 木造で2階建て又は平屋
延べ面積が500㎡以下
遠軽町内に建っている

遠軽町役場 建設課 建築担当

ご相談窓口

〒099-0492 紋別郡遠軽町1条通北3丁目1番地1 TEL 0158-42-4817
FAX 0158-42-3688



あなたの地域やあなたの住宅は大丈夫ですか？
地震による被害を減らし、安心・安全なまちづくりに向けて
遠軽町では住宅の耐震化の目標を定め、耐震化を進めていきます。

遠 軽 町

あなたの地域の“ゆれやすさ”は？ — あなたの住まいの地域の震度と避難所を確認しましょう。



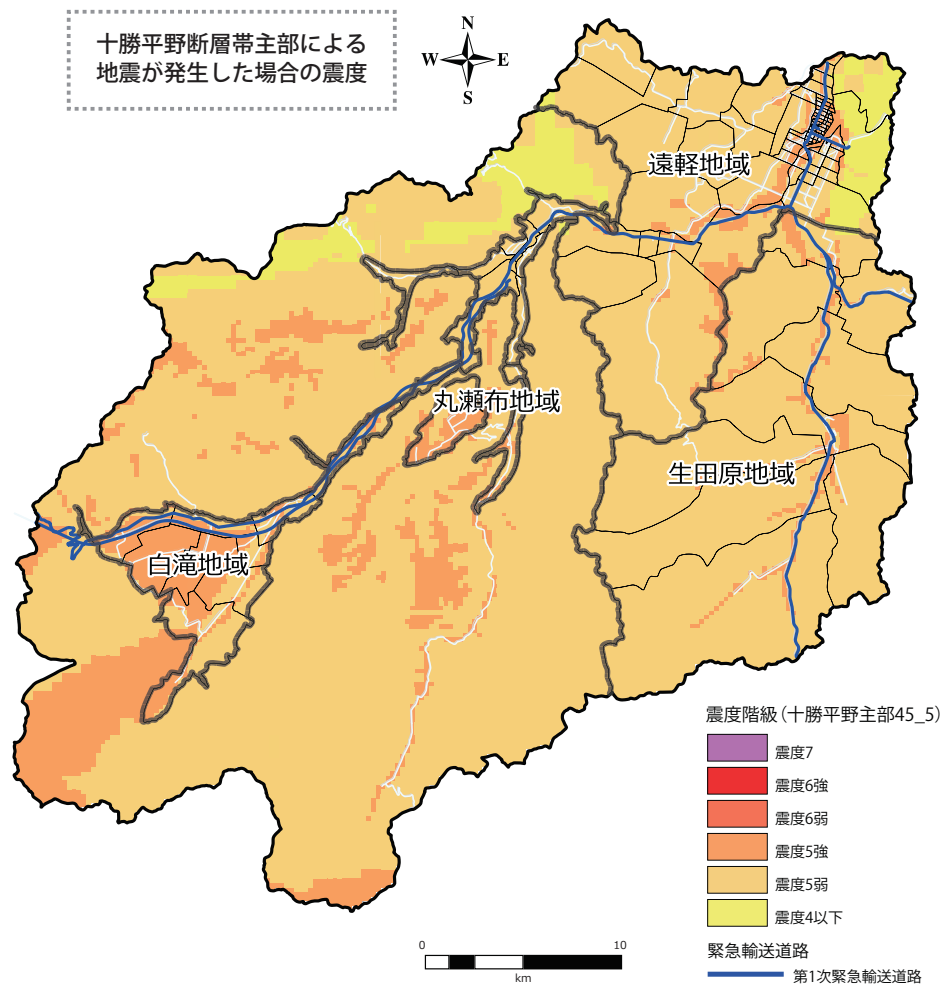
遠軽町で大きい被害が想定される地震と震度

地震が発生した時の住宅被害は、地域の「震度」と住宅の「耐震性能」によって異なります。あらかじめ、あなたの住んでいる地域に想定される地震や地震が発生した時の“ゆれやすさ”を知っておくことが大切です。

ここで紹介している『ゆれやすさマップ』で、あなたが住んでいる地域の“ゆれやすさ”を把握しましょう。



遠軽町における想定地震と「ゆれやすさマップ」 ・ 地震時に通行を確保すべき道路（第1次緊急輸送道路）



あなたの家の耐震性能は大丈夫！？

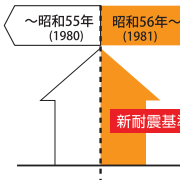
住宅が建てられた時期はいつ？ 新耐震基準について

現在の耐震基準は、昭和56年(1981)にできたもので、それ以前のものと区別するために「新耐震基準」と呼ばれています。現在、すべての建物はこの基準で建てられています。昭和55年(1980)以前に建てられた住宅にお住まいの方は**特に注意してください**。

強い地震にも耐えられる？

新耐震基準とは

「新耐震基準」の目的は、大地震(震度6程度)の際には“建物の倒壊を防ぎ、中にいる人の安全を確保できる”ようにすること、中地震(震度5程度)の際には“建物が壊れない”ようにすることです。



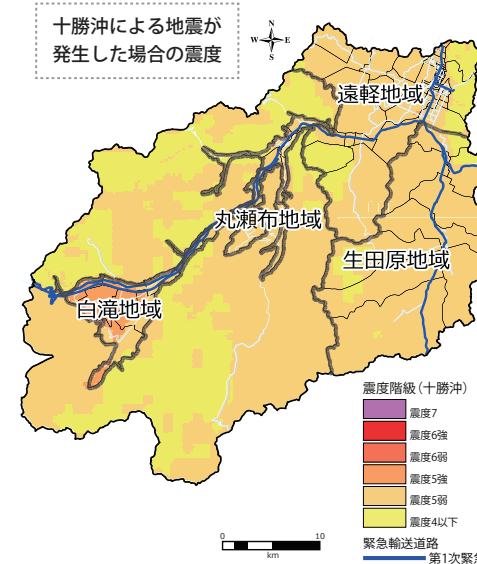
お住まいの地域の避難所を確認しましょう！
遠軽町ホームページ



遠軽町で想定される地震

遠軽町に大きな影響を及ぼすと想定される地震は以下のとおりです。

想定地震	最大震度(震度階級)	平均震度(震度階級)
十勝平野断層帯主部	5.4 (5強)	4.8 (5弱)
十勝沖	5.2 (5強)	4.6 (5弱)
直下型	6.0 (6弱)	5.7 (6弱)



震度階級により想定される状況

震度階級	人の体感・行動	屋内の状況
震度6弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
震度5強	大半の人が、物につかまらないうと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	食器類や書棚の本で、落ちるものがある。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れたりする。
震度5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、食器類、書棚の本が落ちることがある。固定していない家具が移動し、不安定なものは倒れたりする。

